

# 東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

## 命をつなぐために

船橋市立旭中学校

第二学年

田中

大祐

二〇二〇年の夏、コロナ禍による全国一斉休校が明けた頃、佐賀に住んでいる祖父が心臓と腎臓の大きな手術をすることになりました。祖父は、長年勤めていた大学を定年退職し、ギターやサッカー、俳句など活動的で、私の尊敬する人です。遠い千葉から、とても心配しました。佐賀へお見舞いに行く計画も立てましたが、まん延防止等重点措置が発令され、取りやめました。私は、毎年夏休みに帰省することが楽しみだったのに、佐賀へも行けないし、コロナも不安だし、モヤモヤな気分の夏でした。

十二時間に及ぶ手術は、無事に終わったと祖母から連絡がきました。一ヶ月ほど、入院して経過は順調でした。家族でとても喜びました。そして、会いたくても会えない距離の遠さを実感しました。退院後は、週に三回の

人工透析が始まりました。人工透析は、四時間かけて、体内の老廃物と余分な水分を取り除き、浄化された血液を体内に戻す治療です。祖父の場合は、一回でも休むと死んでしまうので、悪天候の日でも必ず通院します。病院までは、本数の少ない電車とバスを乗り継いで、片道一時間かかります。祖父は、今は年金生活です。年金しか収入がないのに、週に三回も人工透析に通えるのだろうか、医療費は大丈夫なのだろうか、と疑問が多くありました。

祖父に治療費の事を聞いてみると、祖父は心臓と腎臓の疾患により「身体障害者手帳一級第一種」と「自立支援医療給付受給者証」が付与され、通常より少額で医療を受けることができますようになったそうです。また、電車賃やバス料金も安くなるので、往復二時間かかる通院も、気持ち的に軽く感じるそうです。

す。年金暮らしの祖父母は、この制度のおかげで、毎月莫大な医療費に追われることなく生活ができ、とても感謝していると話していました。

私も、病院に行く時は「船橋市子ども医療費助成受給券」を提示すると、三百円で治療が受けられます。サッカーで怪我をした時も使えるので、とても有り難い制度です。

祖父や私の医療費は、税金によって支えられています。税金と聞くと、何に使われているのか曖昧に感じてしまいましたが、医療費やゴミ収集、道路整備など、身近にたくさんあります。税金なくしては、私達の生活は成り立たないのです。税金を支払い、そして自分も税金のおかげで、快適な暮らしができていくことを忘れてはいけないと思います。

祖父は、明日への命をつなぐために、今日も四時間の人工透析に通っています。税金で支えられている分を、少しでもお返ししたいと言い、朝は横断歩道に立って、小中学生の登校を見守るスクールガードのボランティアを続けています。見えないところで、人と人が支え合い生きています。私も将来、税金を納めて、社会に貢献していきたいです。